

マテリアリティ(重要課題)の特定

メックグループは、「独創の技術で新たな価値を創造し、お客様とともに持続可能な社会の実現に挑戦する」という2030年ビジョンのもと、事業活動を通して界面価値創造を実現することで豊かで潤いのある社会と環境づくりに貢献するために、経営として取り組むべき6つのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。これらのマテリアリティは、「2022-2024中期経営計画」策定にあたり選定したものです。

マテリアリティ特定プロセス

重点課題の抽出	GRIスタンダードやSDGsなどの国際的なフレームワークやガイドラインを参照しながら社会課題を洗い出し、経営ビジョンや事業のバリューチェーンを踏まえ、当社グループと関連性の高い課題を抽出。
重要度の分類・評価	リストアップした課題の中から、当社事業に関連性の高い分野を抽出したうえで、事業軸と社会軸でマッピング。
自社での検討	メックの企業理念、「2030年ビジョン(2022-2024中期経営計画)」との連動を踏まえて検討。
ESG委員会での意見交換	マテリアリティ素案について、社内外の有識者としてESG委員会のメンバーと意見交換。
マテリアリティの特定 取締役会で承認	特定したマテリアリティ、各要素について、取締役会で妥当性を認識し、決議。

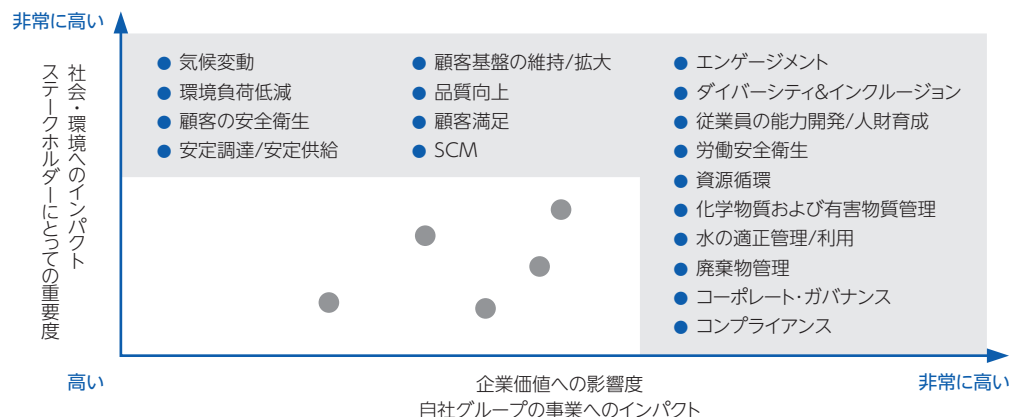
抽出されたマテリアリティを6つの事業分野に分類

マテリアリティ	<ul style="list-style-type: none"> 高付加価値製品の開発、提供 お客様の生産効率向上、歩留まり向上への寄与 環境負荷低減製品の開発 新技術・新事業創出 	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンマネジメント CSR調達 グローバル生産 グローバル供給 BCP 	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動対応 人と自然の共生 適正な化学物質管理 BCP
事業分野	1 未来を切り拓く研究開発	2 適正な調達、生産、物流	3 環境保全
マテリアリティ	<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生(人) 品質保証(製品) ステークホルダーとの長期的信頼関係の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 健康経営 ワークライフバランス キャリア形成 ダイバーシティ エンゲージメント 	<ul style="list-style-type: none"> コーポレート・ガバナンスの強化 適正な情報開示 情報セキュリティ リスクマネジメント コンプライアンス
事業分野	4 品質と安全	5 多様な人財の活用	6 経営基盤の強化

重要度の高い取り組み評価

社会と自社事業の2軸から最も重要なテーマを特定し、影響度の評価をマッピングしました。

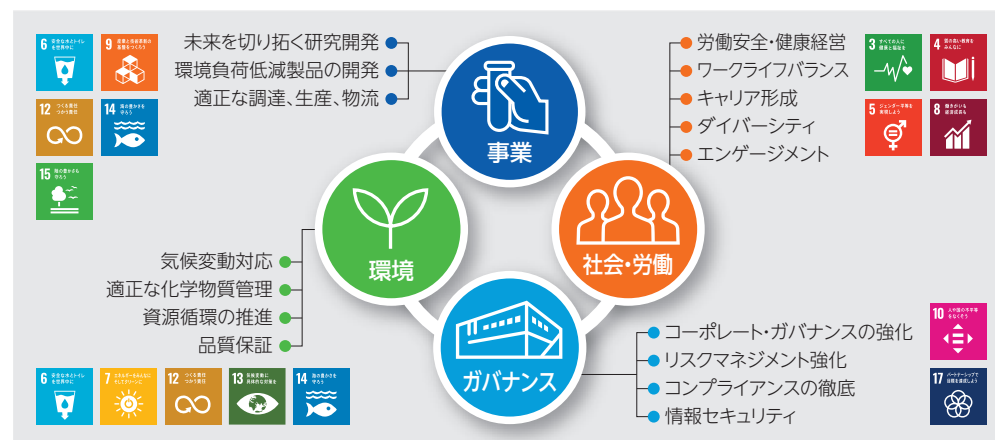
マテリアリティ特定のための評価



SDGsとマテリアリティの関連性

マテリアリティをSDGsとの関連性で分類し、各マテリアリティに紐づく13のSDGs目標を設定しました。

事業を通じたSDGsへの取り組み



マテリアリティとKPI、および関連するSDGsアクション

6つのマテリアリティ	マテリアリティ充足のための取り組み	2023年度のKPI (達成指標)	達成度	実施事項・施策【2023年度のKPI達成状況】	2030年の目標	関連するSDGsアクション
1 未来を切り拓く研究開発	環境負荷低減製品の開発	Sustainableな製品開発の推進	○	脱化石燃料99%を達成した銅表面処理剤を開発 2024年度には他製品をベースにブラッシュアップを行う	●化学密着に関する技術の確立 ●廃液・排水処理の負荷低減	9 産業と消費製品の循環をつくらせよう 17 パートナシップで目標を達成しよう
	新規事業の開拓	画像認識、AIソリューションの遂行	○	AI事業 (Pictel) 推進。顧客とのPoC (概念実証) 積み上げにより技術蓄積を行った	柱となる新規事業を立ち上げる	
2 適正な調達、生産、物流	SCM (サプライチェーンマネジメント)	原料メーカー訪問、技術検討会の開催や、社長同士の交流を実施し、関係性を深める	○	原料メーカー訪問: 4社 技術交流会: 2社 社長同士の交流会: 1社	自然環境や人権を考慮し、環境に配慮した原料の調達や、原料・容器のリサイクル活動に取り組み、また、引き続き、責任ある資源調達に努める	9 産業と消費製品の循環をつくらせよう 17 パートナシップで目標を達成しよう
	CSR調達	主要原材料調達先の複数化を計画通り推進中	△	約70%の複数化を達成		
	グローバル生産・供給体制の構築	各生産拠点における生産・供給能力向上	○	各生産拠点における中長期増産計画に則り、必要な増産投資を複数拠点にて実施	グローバル生産体制の構築/連結BCP体制確立	12 つくも責任をつらぎ責任
	BCP (事業継続計画) 対応	国内工場のBCPの再構築 (2025年目標)	○	北九州新工場の建設を見越した、新BCPを構築すべく、プロジェクトを立ち上げ、活動を行っている【2025年までの複数年計画】		
3 環境保全	適正な化学物質管理	含有禁止物質の不使用	○	含有禁止物質を使用しない仕組みの維持、環境法規制への対応などさまざまな化学物質の取り扱いについて、法に従った適切な管理を実施	化学物質の管理徹底により取り扱う方々の健康への影響を限りなくゼロにする	12 つくも責任をつらぎ責任 14 海の豊かさを守ろう
		教育の実施と情報の共有化	○	化学薬品メーカーとして、薬品を取り扱わない社員も含め、化学物質管理に関する教育を5回実施 また、化学物質を使用・管理する社員に対し、適正な社内教育と危険有害性情報の共有を実行		
	気候変動問題への対応	TCFD提言に沿った情報開示の強化	○	2024年2月にリスクおよび機会の影響度・発生時期他、TCFD提言に関する情報の追加開示を実施した	社会の持続的な成長のため、地球環境問題に真摯に取り組む	13 気候変動に具体的な対策を
		Scope3に関する開示を行う	○	Scope3のカテゴリー5 (事業から出る廃棄物)、6 (出張)、7 (雇用者の通勤) について、国内分の排出量を公開した	エネルギー使用の削減とネットゼロに向けての取り組みを実施	
4 品質と安全	安全衛生管理	休業災害件数: 0件	○	休業災害件数: 0件を維持 (不休業災害件数: 0件)	安全で安心な労働環境を提供する (休業災害: 0件を維持)	12 つくも責任をつらぎ責任 15 陸の豊かさも守ろう
	品質保証	品質保証体制の再構築と改善	○	品質保証体制の再構築に継続して取り組み、計画通り対応を完了した	お客様が満足する「モノ・コト」をグローバルで提供し続ける	
	適切な情報開示による企業価値の向上	情報開示の適宜実施	○	●適時開示を求められる情報の遅延ない開示の継続 ●適時開示を求められる情報の英文開示の拡充 ●ホームページリニューアルやサステナビリティ報告書の充実	さらなる企業価値向上への貢献を推進	8 豊かになる 8 豊かになる 17 パートナシップで目標を達成しよう

マテリアリティとKPI、および関連するSDGsアクション

6つのマテリアリティ	マテリアリティ充足のための取り組み	2023年度のKPI (達成指標)	達成度	実施事項・施策【2023年度のKPI達成状況】	2030年の目標	関連するSDGsアクション
5 多様な人財の活用	健康経営	健康診断の受診率維持	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種健康診断受診率100%維持 ● ストレスチェックのチェック項目48から60へ増やし、状況把握の深掘り実施 	健康経営の推進、各種休暇制度の運用により、高い従業員満足度を維持する【男性従業員の育児休業取得率を2030年に85%以上とする(当社単体目標)】	   
	ワークライフバランス (WLB)	男性従業員の育児休業取得向上	○	2022年度: 6名 2023年度: 4名取得 (平均取得日数は47日)		
		職場環境の改善	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 福利厚生面における「仕事の効率化」「多様な働き方」についてのマネーセミナーを40代、50代社員へ実施 ● 看護休暇制度新設による研修動画作成準備 ● お金、健康について定期的な研修制度の検討 	多様な働き方に対応した職場環境の整備	
	キャリア形成	受講必須研修の原則全員受講	○	対象となる研修の受講率: 約100% 社員一人ひとりがその能力を最大限発揮できるよう、「階層別研修」「業務スキル向上セミナー」「キャリア形成サポート」などのプログラムで、教育を多様化・充実化	社会やメックが求める人財の育成と、公正で満足度の高い職場環境の実現を目指す	
	ダイバーシティ	課長級以上の役職に女性を2名以上増やす (2024年3月時点の目標)	○	2024年3月時点で2名増を達成		
	エンゲージメント	会社との信頼関係の維持 (関連項目の満足度70%以上)	○	年次意識調査における「仕事のやりがい」スコア向上 満足度69.4% (2020年度*) → 70.5% (2023年度) ※社外調査と比較できないため、前回(2020年度)の社内システムによる調査結果との比較		
ガバナンス	取締役会の出席率 85%以上(社外取締役)	○	社外取締役の出席率: 100%	ガバナンスの強化により、社会から信頼される企業運営を行う		
6 経営基盤の強化	情報セキュリティ	重大セキュリティ事故発生件数: 0件	○	重大セキュリティ事故発生件数: 0件 保有する情報資産を適切に管理・利用するため、厳守すべき基本事項を定め、その適切な運用によって均質な情報セキュリティ管理を実現できるよう、取り組んでいる	機密情報漏洩に伴う損失の回避	
		自己点検の全員実施と合格率100%	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 自己点検の全員実施および合格率100% ● ITリテラシー教育の実施回数: 6回 従業員が理解しておくべきITの仕組みや、情報セキュリティ他に関するWeb教育を計画通り実施		
	リスクマネジメント	経営リスクの可視化と対策の実行	○	経営リスクの適宜見直しと対策の実行 当社グループの持続的成長を阻害する、さまざまなリスクやその対策の可視化を行い、リスクマネジメント委員会にて報告し、審議実施	メックグループが持続的に成長するため、リスクと機会の把握を徹底する	